
僕等とQちゃんの思い出

TOUDA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕等とQちゃんの思い出

【Nコード】

N28560

【作者名】

TOUDA

【あらすじ】

嵐の夜に生まれた命が流れ着いた小さな島で暮らす少年達の優しさに触れ成長していく。

少年達はその小さな生き物から“命の大切さ”と“自然との関わり”を学んで行く。

序章

暗い暗い海の中。

何処までも続く暗闇の海の奥深く。

その闇の底から一つの黒い影が海面へと躍り出る。

「ギヤアアアアア！！！！」

海面から姿を現したその影は暗雲で覆われた空に向かい咆えた。

その咆哮は悲しみと苦しみを含み痛々しい程切ない物だった。

暗雲がゴロゴロと雷を鳴らしその咆哮を掻き消す。

暴風雨で海は荒れに荒れ海面に躍り出たその大きな大きな影を弄ぶかのように転がした。

「グギヤアアアアアアア！！！！」

波に煽られ大岩にその身を打ちつけその巨体から赤黒い血が流れ出る。

だが、そんな事に構う余裕などその巨体の生き物には無い。

何故ならこの生き物は今、新たな命を生み落とそうとしているのだから……。

轟轟

耳を劈く雷鳴と共に落雷が数キロ離れた所に落ちた。

それとほぼ時を同じくして嵐によって荒れ狂う海の底に一つの小さ

な命が産み落とされた。

だが、母と子は荒れ狂う波によって引き離されてしまう。
生まれ落ちた小さな命。

この広い海で脆弱なその命は抗う術を知らない。
母親は子を産んだ事で疲弊し体から流れ出た大量の出血により意識
が朦朧としている。

だが母親は最後の力を振り絞り未だ目の見開かぬ我が子に向かって
鳴いた。

どうか生きて。何が有っても、生きて！

この嵐の夜の出来事は誰も知る事は無い。

しかしこの夜生まれた小さな命がこれから大事件を起すなど誰が知
る事か。

嵐の夜に生まれた命が物語を紡いでいく……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2856o/>

僕等とQちゃんの思い出

2010年10月25日19時12分発行